

令和元年5月30日
大学入試センター

「大学入試英語成績提供システム」の利用について

※本資料の内容は、現時点の予定です。成績請求・提供のスケジュールの詳細については、確定次第お知らせする予定です。

1 成績提供システム導入の背景

平成29年（2017年）7月に文部科学省が策定・公表した「大学入学共通テスト実施方針」（以下「実施方針」という。）では、英語の4技能評価について、「高等学校学習指導要領における英語教育の抜本改革を踏まえ、大学入学者選抜においても、『読む』『聞く』『話す』『書く』の4技能を適切に評価するため、共通テストの枠組みにおいて、現に民間事業者等により広く実施され、一定の評価が定着している資格・検定試験を活用する」とされています。これを具体化するための仕組みとして、大学入学者選抜における資格・検定試験の活用を支援するため、大学入試センター（以下「センター」という。）に新たに「大学入試英語成績提供システム」（以下「成績提供システム」という。）を設けることとなりました。

これにより、成績提供システムに参加する資格・検定試験の成績情報（電子データ）をセンターで一元的に集約・管理し、請求のあった受験者の成績を大学に対し提供します。

2 成績提供システム活用の利点

（1）確実なスケジュール管理

受験者が自ら成績証明書を取得して大学に提出する場合、資格・検定試験を受験する試験実施日から、成績証明書を各資格・検定試験実施主体（以下「試験実施主体」という。）より取得して大学に提出するまでに必要な期間が必ずしも明確ではないことにより、大学への出願締切日までに成績証明書の取得・提出が間に合わない場合もあります。

成績提供システムでは、あらかじめそれぞれの試験実施日に受験した成績を大学に提供するスケジュールについて毎年公表するため、大学及び受験者が確実にスケジュールを管理できるようになります。

（2）事務作業の効率化

大学入学者選抜において資格・検定試験の成績を活用する大学では、受験生が各試験実施主体から取得して大学に提出する成績証明書の確認や当該成績情報の入

力作業等を行う必要があります。また、近年、資格・検定試験の成績を活用する大学入学者選抜は増えており、今後、これらの事務作業は相当程度増加すると見込まれます。従来の出願書類（成績証明書）の受取方法と比べ、成績提供システムを活用することにより事務作業が効率化されます。

3 大学への成績請求・提供のスケジュール

受験者は、共通ID（各資格・検定試験共通で個人を特定するためのコード）の発行をセンターに申込み、取得します。次に、センターから大学への成績送付の対象とする2回までの資格・検定試験を4月から12月の期間から選び、当該資格・検定試験に受験を申し込む際に、所定の欄に共通IDを記入し、受験します。

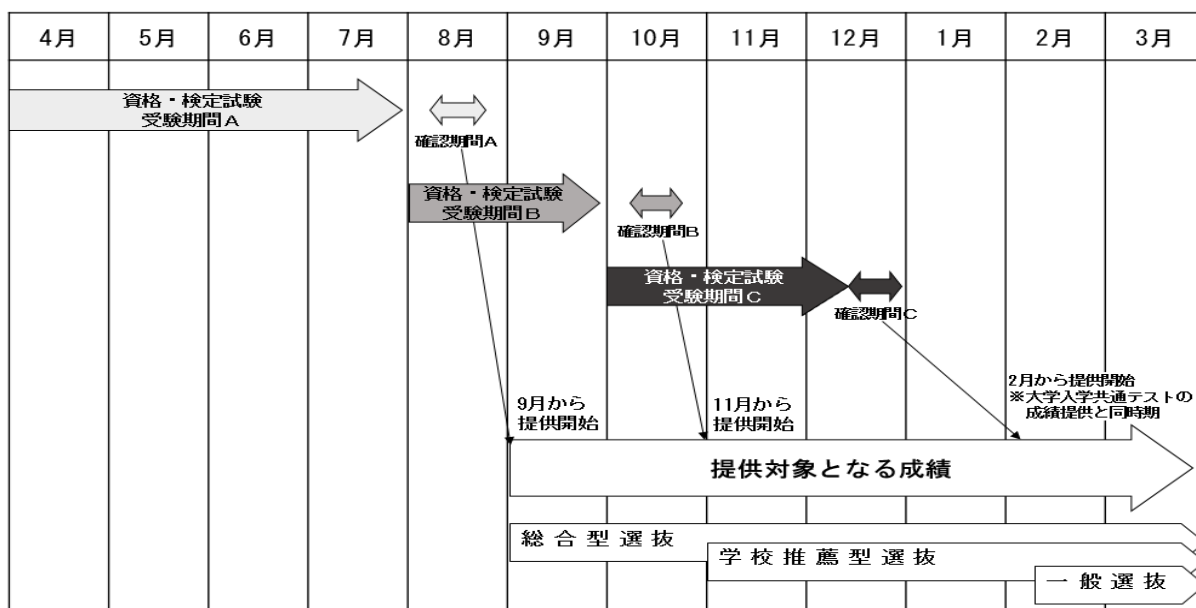
センターから大学への成績提供開始時期は、総合型選抜（9月以降に実施）や学校推薦型選抜（11月以降に実施）における利用も考慮し、図表1のとおり、受験期間を3つに分けて、それぞれの成績提供開始時期を設定します（各受験期間に対応し、大学への成績提供開始時期は、9月以降、11月以降、2月以降の3回を設定する予定です）。

後述（5（6））のとおり、各大学においては、各試験実施主体が公表する情報を踏まえ、それぞれの選抜方法において有効となる資格・検定試験の対象範囲を募集要項等であらかじめ受験者に分かりやすく明示することが必要となります。

各大学は、各成績提供開始時期に対応した資格・検定試験の成績を、土・日曜、祝日及び年末年始を除き、原則として毎日請求することが可能であり、センターは即日成績を提供します（ただし、成績処理等のため、成績の提供ができない期間を設定する予定です）。

成績請求・提供スケジュールの詳細については、決定次第お知らせする予定です。

図表1 ※受験期間はイメージであり、現時点における予定です。



4 成績提供システムを通じて大学へ提供される項目等

(1) 成績提供システムを通じて大学へ提供される項目

成績提供システムを通じて大学へ提供される予定の項目は、「総合CEFR¹段階別表示」、「総合スコア」、「4技能別のCEFR段階別表示」、「4技能別のスコア」、「級の合否」及びその他各試験実施主体が受験者に対して提供している情報です。

図表2のとおり、「総合CEFR段階別表示」及び「総合スコア」は全資格・検定試験共通で提供されます。これら以外については、資格・検定試験によって提供の有無が異なります。また、各項目の記載内容（スコアの上限值及び下限値等）は、資格・検定試験によって異なりますのでご注意ください。

詳細については、決定次第お知らせする予定です。

図表2

大学へ提供される項目	提供の有無
総合CEFR段階別表示	全資格・検定試験について提供
総合スコア	全資格・検定試験について提供
4技能別のCEFR段階別表示	一部の資格・検定試験について提供
4技能別のスコア	一部の資格・検定試験について提供
級の合否	一部の資格・検定試験について提供

(2) 成績提供の対象となる受験年度

高等学校等の卒業見込み者については「受験年度の成績」、既卒者については「受験年度と前年度の双方の成績」を選択利用することができます。ただし、成績提供システムの導入初年度である令和2年度（2020年度）に関しては、「受験年度の成績」の利用に限られます。

各大学の入学者選抜で前年度の成績を利用する場合には、募集要項等において受験者に分かりやすく明示してください。

5 成績提供システムの利用に当たって

(1) 成績提供システムの利用について

成績提供システムは、大学入学共通テストを利用しない入学者選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜でも利用可能です。また、大学入学共通テストを利用しない大学において、成績提供システムのみを利用することも可能です。

大学におけるセンターから提供する成績等の活用パターンは、「大学入学共通テストの成績のみ」、「大学入学共通テストの成績及び資格・検定試験の成績」及び「資

¹ CEFR : Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, assessment: 外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠

格・検定試験の成績のみ」の3区分があります。

(2) 文部科学省及びセンターへの利用の申込方法

成績提供システムを利用する場合の申込方法については、現在検討中です。また、大学入学共通テストの申込方法は、現行の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）に準じて検討中です。いずれも、決定次第お知らせする予定です。

(3) 成績提供手数料

大学への成績提供手数料は、(1)に示す3区分ごとに設定することを検討しています。

なお、当該手数料の単価については、本システムの開発費用・運営費等を総合的に勘案し、決定します。詳細については、決定次第お知らせする予定です。

(4) 大学からセンターへの成績請求方法

① 受験期間と成績請求時期

「資格・検定試験の成績のみ」の請求は9月以降、「大学入学共通テストの成績及び資格・検定試験の成績」の請求は2月以降に行うことができます。

② 成績請求を行うために必要な情報

「大学入学共通テストの成績及び資格・検定試験の成績」の請求を行う場合は、現行のセンター試験と同様、大学入学共通テストの試験場コード及び受験番号を利用して成績請求を行う予定です（大学入学共通テストの受験番号と共通IDはセンターにおいて紐づけを行います）。

「資格・検定試験の成績のみ」の請求を行う場合は、共通IDを利用して成績請求を行います。このため、各大学においては、受験者から共通ID番号を取得する必要があります。

なお、現行センター試験において成績請求の際に利用している「成績請求票」について、「資格・検定試験の成績のみ」の請求を行う場合は使用の有無も含めて現在検討中です。

成績請求方法の詳細については、決定次第お知らせする予定です。

(6) 募集要項等における受験生への周知

成績提供システムは令和2年度（2020年度）より新たに導入されるシステムであることから、受験生に十分な周知を行うことが必要です。成績提供システムを活用する場合は、募集要項等において、入学志願者がいつまでにどの資格・検定試験を受験する必要があるか、またその成績の取扱い等について、あらかじめ受験生等に対し分かりやすく明示してください。

募集要項等への記載の検討に資するよう、主に必要となる事項を以下に例示しますので、参考にしてください。

①共通 I D の取得

大学入試英語成績提供システムを利用する選抜の入学志願者は、大学入試センターが発行する「大学入試英語成績提供システム共通 I D 発行申込案内（仮称）」を確認し、共通 I D を取得すること。

資格・検定試験の申込み時には、共通 I D を正しく記入すること。記入漏れや誤記入があった場合は、大学入試センターから大学に成績が提供されないので注意すること。また、当該大学の入学試験の出願時にも共通 I D を正しく記入すること。

②資格・検定試験の選択

当該大学入学者選抜を志願するに当たって、どの資格・試験を受験する必要があるのか、またその成績の取扱い等について、学部・選抜ごとに定めているので、確認すること。

③資格・検定試験実施日の選択

資格・検定試験の成績は、総合型選抜、学校推薦型選抜及び一般選抜のそれぞれの出願締切日までに大学に提供可能となる必要があるため、大学入試センターから大学への成績提供開始時期に間に合うよう、選抜方法ごとに指定する資格・検定試験の受験期間に受験すること（以下の「各選抜方法で指定する資格・検定試験の受験期間」参照）。

資格・検定試験の個別の実施日がいずれの受験期間に該当し、成績の提供がいつから開始されるのかについて、各実施主体が毎年公表するスケジュールで確認すること。

【各選抜方法で指定する資格・検定試験の受験期間】（例）

総合型：受験期間 A （令和 2（2020）年 9 月から提供開始）
学校推薦型：受験期間 A・B （令和 2（2020）年 11 月から提供開始）
一般：受験期間 A・B・C（令和 3（2021）年 2 月から提供開始）

④受験年度の前年度の成績の取扱い（令和 4（2022）年度大学入学者選抜以降）

大学入試英語成績提供システムに登録された受験年度の前年度の成績が選抜に利用できるか否かについて、学部・選抜ごとに定めているので、確認すること。

(参考)

英語の民間資格・検定試験活用に係る情報を 御覧いただけるサイトについて

1. 大学入試センターホームページ

https://www.dnc.ac.jp/daiyakunyugakukibousyagakuryokuhyoka_test/index.html

大学入学共通テストの導入に向けた大学入試センターにおける検討状況を御覧いただけます。「大学入試英語成績提供システム」に係る情報としては、大学入試英語成績提供システム参加要件や参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験等を掲載しています。

2. 文部科学省ホームページ

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/index.htm

高大接続改革の進捗情報、英語四技能評価のための資格・検定試験の活用等を含む「大学入学共通テスト」や、「高大接続改革」の取組に係る質問と回答（FAQ）等を掲載しています。

3. 英語4技能試験情報サイト

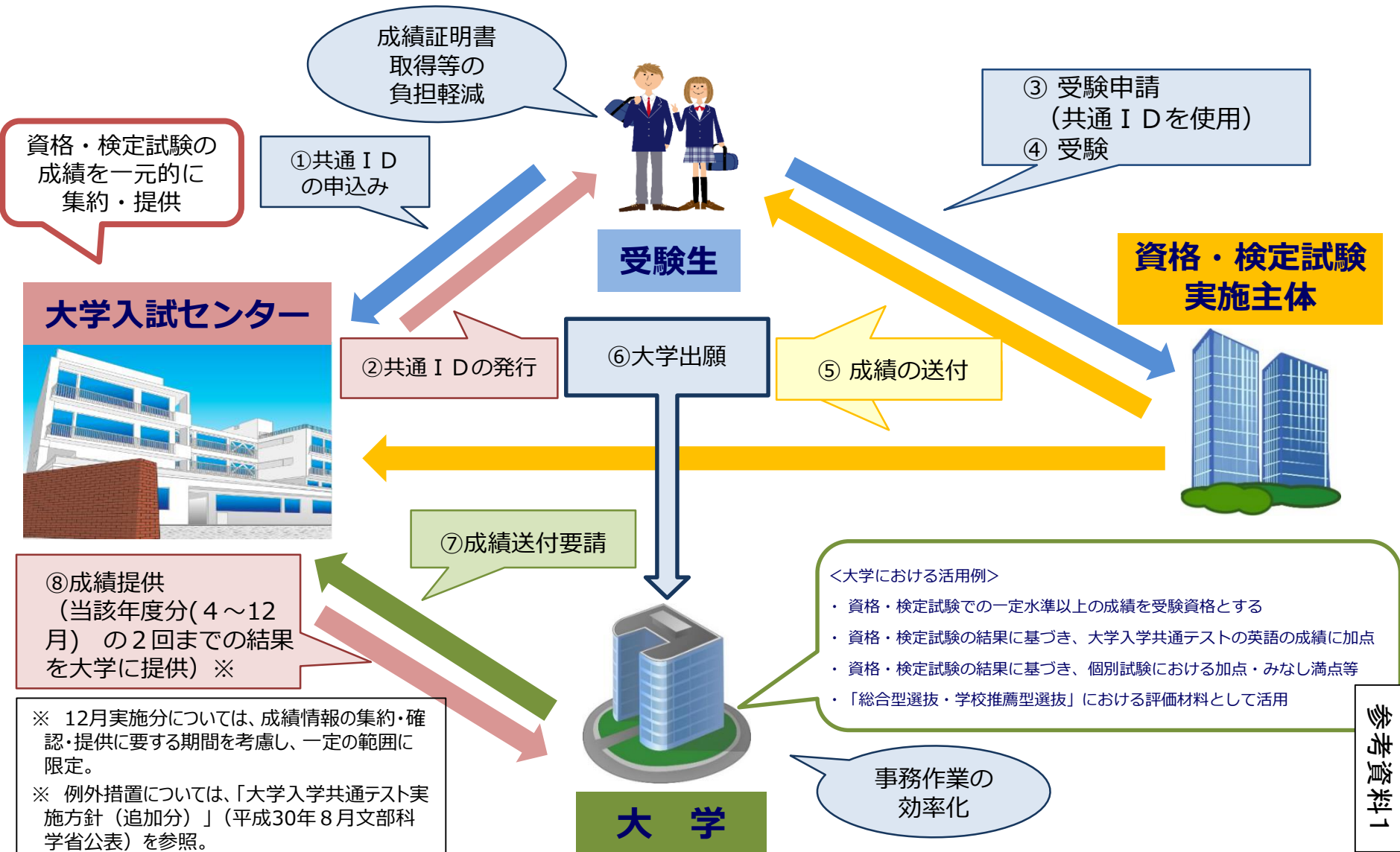
<http://4skills.jp/>

平成26年12月に文部科学省において発足した「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」に参加する試験実施主体が集まり、作成したポータルサイトです。平成30年12月13日に「大学入試英語成績提供システム」に参加予定の資格・検定試験の概要の一覧表が公表されました。この一覧表には、各資格・検定試験の目的、特長、大学に提供される成績情報や障害等のある受験生への合理的な配慮等が掲載されています。

なお、この一覧表以外の同サイトの情報には、大学入試英語成績提供システムに参加予定の資格・検定試験以外の内容も含まれていますので、御留意ください。

「大学入試英語成績提供システム」について〈活用イメージ〉

大学入試センターに「大学入試英語成績提供システム」を設け、大学入学者選抜における資格・検定試験の活用を支援（「資格・検定試験」の成績を一元的に集約し、要請のあった大学に提供）
※本システムによる成績情報は、大学入学共通テストを利用しない入学者選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜でも利用可能。



大学入試英語成績提供システム参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験 (アルファベット・50音順)

資格・検定試験実施主体名		資格・検定試験名	
		ケンブリッジ英語検定	
1	Cambridge Assessment English (ケンブリッジ大学英語検定機構)		C2 Proficiency
2			C1 Advanced
3			B2 First for Schools
4			B2 First
5			B1 Preliminary for Schools
6			B1 Preliminary
7			A2 Key for Schools
8			A2 Key
9	Educational Testing Service	TOEFL iBTテスト	
10	IDP:IELTS Australia	International English Language Testing System(IELTS) (対象:「アカデミック・モジュール」)	
11	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会	TOEIC® Listening & Reading Testおよび TOEIC® Speaking & Writing Tests	
		GTEC	
12	株式会社ベネッセコーポレーション		Advanced
13			Basic
14			Core
15			CBT
16	公益財団法人日本英語検定協会	Test of English for Academic Purposes(TEAP)	
17		Test of English for Academic Purposes Computer Based Test(TEAP CBT)	
		実用英語技能検定(英検)	
18		1級	(対象:「公開会場実施」)
19		準1級	(対象:「公開会場実施」・「1日完結型」)
20		2級	(対象:「公開会場実施」・「1日完結型」・「4技能CBT」)
21		準2級	(対象:「公開会場実施」・「1日完結型」・「4技能CBT」)
22		3級	(対象:「公開会場実施」・「1日完結型」・「4技能CBT」)
23	ブリティッシュ・カウンシル	International English Language Testing System(IELTS) (対象:「アカデミック・モジュール」)	

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省（平成30年3月）

CEFR	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230 200 (230) (210)			9.0 8.5				
C1	199 180 (190)	3299 2600 (3299)	1400 1350 (1400)	8.0 7.0	400 375	800	120 95	1990 1845
B2	179 160 (170)	2599 2300 (2599)	1349 1190 (1280)	6.5 5.5	374 309	795 600	94 72	1840 1560
B1	159 140 (150)	2299 1950 (2299)	1189 960 (1080)	5.0 4.0	308 225	595 420	71 42	1555 1150
A2	139 120 (120)	1949 1700 (1949)	959 690 (840)		224 135	415 235		1145 625
A1	119 100 (100)	1699 1400 (1699)	689 270 (270)					620 320

➡ は各級合格スコア

※括弧内の数値は、各試験におけるCEFRとの対象関係として測定できる能力の範囲の上限と下限

○ 表中の数値は各資格・検定試験の定める試験結果のスコアを指す。スコアの記載がない欄は、各資格・検定試験において当該欄に対応する能力を有していると認定できないことを意味する。

※ ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定及びGTECは複数の試験から構成されており、それぞれの試験がCEFRとの対照関係として測定できる能力の範囲が定められている。当該範囲を下回った場合にはCEFRの判定は行われず、当該範囲を上回った場合には当該範囲の上限に位置付けられているCEFRの判定が行われる。

※ TOEIC L&R/ TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する。

※ 障害等のある受検生について、一部技能を免除する場合等があるが、そうした場合のCEFRとの対照関係については、各資格・検定試験実施主体において公表予定。